 <h1>全国一般評 闘争情報</h1>	186 2009.12.21
	東京都千代田区六番町1 TEL 03-3263-0441 FAX03-5210-7422-5

2010春闘中央討論集会開催

職場・生活実態を点検し、要求と闘う体制の確立を

2009年12月13日～14日、東京・プラザエフにおいて全国から80人が参加し「自治労全国一般評議会2010春闘中央討論集会」を開催した。



冒頭、大浦議長より「2010春闘は組織強化・推進していく上で重要な闘いであり、中小労働者にとって賃上げは切実な課題である。組織の仲間の要求もくみ上げ、地域での運動の強化が求められている。全国の仲間と団結し闘いぬこう」とあいさつ。続いて自治労本部・森総合公共民間局長は、2年後、公務員の労働協約締結権付与が予想されるなかで、自治労として要求提出率を高め、全国一般の仲間と共同し地域の運動をしっかりとつくりていきたい」と述べた。

自治労公共民間評議会・宮島議長からは、入札制度の下での労働コストの低下などの矛盾点をあげ、「公共民間の職場で働く仲間の労働条件が健全でなければならぬが、現実には具体化がまだ難しい状況にある」ことを述べ、各地域でより一層の努力をし、政権に声を届けるために来夏の参議院議員選挙において「えさきたかし」組織内予定候補の勝利に向けても共に闘おうとあいさつがあった。

中小労働者にとって切実な賃金引上げのとりくみ

亀崎事務局長より、全国一般2010春闘方針案の提起、三木副議長より春闘調査の中間報告がされた。連合が、2010春闘での統一ベースアップ(ベア)の要求を断念したことにふれ、「中小労働者にとっては、ベア要求を簡単に断念できる生活実態になく、賃上げこそが生活をまもるための手段であり、賃金テーブルのない中小にとっては、具体的な賃上げ要求を掲げ闘う必要がある」とし、地場の労働者の賃金が大きく左右するなかで企業や産別の枠を超えた地域の共闘をもって2010春闘を闘いぬこうと述べるとともに、賃金引上げ要求9000円以上(賃金カーブ維持分4500円+生活向上分500円以上+格差是正分4000円以上)が提起された。

全体討論では、連合がベア要求を断念したことについて多くの反対意見がだされ、全国一般評議会の賃上げ要求9000円以上の提案についても格差を是正するためにも最低でもこのくらいの要求は必要などの意見が出された。また、改正労基法の勉強会が必要であるとの意見もだされ、全国一般評議会としても対応していきたいとした。

また、各職場の取り組み状況の報告もされ、活発な意見交換となった。

2日目には栃木地方労組・普恵園闘争、石川地方労組・大同テクノ、大阪地方労組の争議組合の闘いが報告され、全体の拍手で支援を強化していくことを確認した。



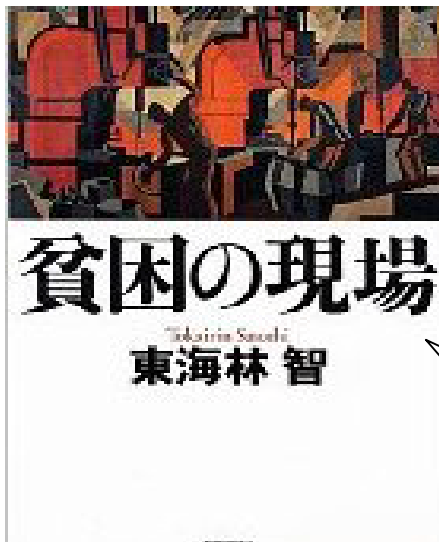
17万を越す署名ありがとうございました。(普恵園・石川さんの報告)



【働くものの尊厳を取り戻すために、労働組合の役割が重要！！】 毎日新聞・東海林記者が講演

毎日新聞・社会部の東海林智記者を招いて「貧困の現場から、今、労働組合に求められるもの」をテーマに講演をいただいた。東海林さんは新聞記者として、10年前から大阪西成区の労働者(日雇い労働)の取材をはじめた。現場で見たもの、そこにあった人の暮らしと、そこから始まった労働単価の引き下げの流れなど、取材をする中でクローズアップされた貧困の現実について、これまで接してきた労働者の例をあげながら講演した。日経連のいう「雇用の多様化」とは、労働者が選ぶことができ初めて「多様」と言えることであり、現状は「強制」であること。特に派遣法は労働法ではなく「商取引」であることから、労働の尊厳が失われ企業の労働に対する感性が失われてきていることが、いかに危険なことであるかなど訴えた。「非正規労働者の組織化は企業内組合ではできない、一人でも加盟できる地域労組が重要だ。

全国一般の仲間には大きく期待している」と締めくくった。最後に大浦議長がまとめを行い、ガンバロー三唱で閉会した。



「貧困の現場」
発行：毎日新聞社
著者：東海林智